

私も誰かの力になれる

「たくさんさんの感動と勇気をありがとう。これからも応援しています。がんばってね。」

マジックで太く大きく書かれた文字。その手紙を書いてくれたのは、私と同じように目が不自由なおじいさん。去年の秋、私が全国障害者スポーツ大会に出場した話を聞き、残りわずかな視力を使って一生懸命書いてくれたのでした。「こんな私でも誰かの力になれるんだなあ」その時私は、嬉しさと誇らしさで胸がいっぱいになりました。

私は、いろんな場面で様々な人たちから勇気や感動をたくさんもらっています。

例えば、家族。私の家族は、全員が視覚障害者です。「家族みんなが障害者なんて、さぞかし大変だろう」と思われるかもしれませんが、決してそんなことはありません。なぜなら、目のことで辛い思いをした時、一番私の気持ちを汲み取って勇気づけてくれるのは家族だからです。

私が目のでいじめられた時、

「見えんとは生まれつきやけん、しかたないたい。堂々と生きとれば、何も辛かことはなかと。」

「そうねえ。辛かねえ。頑張らんばねえ。」とにかく私の味方になって支えてくれました。

また母は、いつも私に家の仕事を手伝わせます。「イヤだなあ」と思うこともありますが、大人になってちゃんと自立できるようにという障害のある母だからこそその愛情だと、今なら分かります。私にとって家族は、存在自体が生きる力なのです。

次に、友達。私には同じ歳のとても仲がいい健常者の友達がいます。隣で白杖をついて歩いていても、ルーペを使って携帯電話を見ている、不思議な顔一つせず、自然に接してくれます。「こい何て書いてあつと?」「こい読んで」自分の目が悪いことなど全く気にせず、遠慮なく話せます。友達は私のことを「障害者」としてではなく、「一人の友達」として接してくれます。そんな友達の態度が、私にどんなことにも立ち向かう勇気を与えてくれるのです。

私の通う盲学校には、視覚に障害のある先生方もたくさんいます。とても前向きで、元気で明るくて、「ほんとうに障害者?」と思っています。私が今のように音楽やスポーツ、弁論大会に積極的に出場するようになったのも、何にでも挑戦させてくれる先生方のおかげです。「視覚に障害があっても生徒に自信や勇気を与えてくれるこんな素敵な先生になれるんだ。」

先生方の姿は、私の未来への希望です。

そして、全国障害者スポーツ大会。私は陸上競技に出場。大会では、様々な障害者が自分の持てる力をフルに発揮して競技を楽しむ姿を目にしました。たとえ手足がなくても、目が見えなくても、自分の夢や目標に向かって精一杯努力する姿はとても感動的です。スポーツができることへの純粋な喜び、最後まであきらめない強さ。そのひたむきさは、私の胸を熱くし、「障害なんかに負けられない」という前向きな心を与えてくれました。手にした金メダルの重さは、私の努力の結果、そして明日への勇気そのものです。

たくさんの人たちからもらった勇気や感動。今度は私が一人でも多くの人に勇気や感動を与えたい。そして、私の夢である「盲学校の先生」になって、障害で悩む子供たちの力になりたい。

おじいさんからのあの言葉は、今も私の胸に強く響いています。私が、自分の夢に向かっていちずに頑張ることが、知らない間に誰かの力になっていることを、おじいさんは気づかせてくれました。私も誰かの力になれる。そのことが私の自信になります。そして夢に向かって大きな一歩を踏み出させてくれるのです。

たくさんさんの感動と勇気をありがとう。

皆さんも、誰かに勇気や感動をもらったことはありませんか。

そして、忘れないてください。あなた自身が誰かの力になっているということ。

平成十八年度第一回長崎県中学校総合文化祭『私の主張』より